

## 米価下落対策に関する意見書

令和元年産の米在庫が20万トンもあるという状況が伝えられる中で令和2年産の収穫が始まりました。

米価の下落が懸念されていましたが、対前年比で概ね1,000円安でスタートしました。しかしながら、やはり懸念されていたコロナ禍での外食需要の落ち込みは想像以上でした。

収穫期終盤までには、米価は2,000円から3,000円の落ち込みで推移し、いまだ回復の兆しがありません。

このような状況下で令和3年産米の作付け計画をするに当たり、3年産米は危機的状態になると予想されます。

農林水産省も危機的状況を踏まえた予算編成を組んだと報道されております。また、これを受けて新潟県は既に農家の手取りが10アール当たり15万7,000円になる施策を打ち出し、北海道も追随する方向だと伝えています。

千葉県におかれましてもこの状況を共有していただき、国の予算を積極的に活用し、千葉県の独自性を持った施策を実行されたく、下記の事項につきまして、強く要請します。

### 記

- 1 再生産できる価格の保証と、農家手取り10アール当たり15万7,000円以上の実現
- 2 MA米の輸入取りやめ又は輸入数量の見直しについての国への働きかけ

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年3月16日

千葉県匝瑳市議会議長 石田 勝一

千葉県知事 森田 健作 様